

津山のわらべうた(2)

—ことばあそびの歌—

杉山 知子・井戸 和秀

美作大学・美作大学短期大学部紀要（通巻第49号抜刷）

報告・資料

津山のわらべうた（2）

—ことばあそびの歌—

Children's Game Songs of Tsuyama (2)

杉山知子・井戸和秀*

調査の目的

子どもの音楽面での原点ともいえる「わらべうた」は「遊び」と深く結びついて、それぞれの地域における文化を内包しながら伝えられてきた。しかし、「津山のわらべうた（1）」¹⁾で述べたように、現代社会においては様々な要因により、わらべうたが自然発生的に歌われる場面は非常に少なくなっている。また、意図的に、わらべうたを歌う場面が設定された場合には、その地域に根付いたものではなく、画一化されたわらべうたになってしまいがちである。その結果、地域に伝えられてきたわらべうたは、その本来の姿を失っていくだろう。

そこで、「津山のわらべうた（1）」に引き続き、本研究では、津山地域で収集したわらべうたの歌詞と旋律を楽譜として採譜し、記録に残すこととした。

なお、今回は「ことばあそび」について報告する。

調査の方法

わらべうたの採録に当たっては、土居由乃（どいよしの）氏²⁾と山田美那子（やまだみなこ）氏³⁾に全面的な協力をいただいた。このお二人についての紹介は、「津山のわらべうた（1）」で行っているのここでは省略する。

採録の具体的な方法は次のとおりである。

1) 土居由乃氏からの採録

①録音年月日：2002年3月14日および4月3日

②録音の場所：津山市下田邑の土居氏宅

③録音の方法：カセットテープおよびMD

④録音の曲数：33曲

2) 山田美那子氏からの採録

①録音年月日：2002年3月13日

②録音の場所：美作大学 杉山研究室

③録音の方法：カセットテープおよびMD

④録音の曲数：41曲

調査曲の内容

今回は収録した74曲の中から、「津山のわらべうた（1）」で取り上げた30曲を除く44曲を対象とした。その中から「ことばあそび」に関する歌28曲を取り上げ、楽譜と歌詞を示し、若干の説明を加えた。

なお、「ことばあそび」という種類であっても、歌詞内容や遊び方により、さらに細かく分類できるため、次のような順序で掲載する。

1. 「数え歌」

歌うだけで楽しんだもの。ひとつ、ふたつ、あるいは、一、二、というように数を数えながら歌ったり、ひとつの「ひ」、ふたつの「ふ」の音から成ることばを歌い出しとするもの。

2. 「はやし歌・冷やかし歌・悪口の歌」

これも動作を伴うものではなく、向こうにいる人に向かって、はやしたてたり、冷やかしたり、悪口を言ったりするときにメロディがついたもの。

3. 「室内での二人あそびの歌」

比較的静かな遊びで、部屋の中で座って行う遊び

*岡山大学

歌。子ども同士、または、おとなと子どもの二人で行うことが多い。

4. 「しりとり歌」

前のことばの終止音と次のことばの開始音を共通に用いるものや、いわゆる「しりとり」として、次のことばを作っていく歌。

5. 「その他」の歌

上記1から4以外の歌で、グループをつくるときにの歌や、動物の様子を見て歌った歌、生活の様子を歌ったものなど。

曲名としては、「歌い出し」の語句を用い、採譜においては、子どもの声域に合うように実音より1オクターブ高く記譜した。また、拍子、リズム、音程などの細かい「揺れ」については、そのまま五線譜表記することは不可能なため、著者2名の協議により修正した。なお、歌の解説が必要な場合は、土居由乃氏と山田美那子氏との相談の上つけ加えた。

1. 数え歌

①譜1 「ひとつ ひょっこ」(歌：土居由乃)

譜1 ひとつひょっこ
♩ = 112~120

ひとつ ひょっこ 才髄頭(さいづちあたま)
ふたつ 福助 ふくれた頭
みつ 見せたい ハイカラ頭
よっつ 横長(よこなが)巾着頭(きんちやくあたま)
いつつ いが栗 ざん切り頭
むっつ 昔の ちょんまげ頭

ななつ 長い 福祿寿の頭
やっつ やかんの つるつる頭
ここのつ こぶこぶ でこぼこ頭
とおで とんがり キューピー頭

*ハイカラ頭・・・現代では男性が四角に頭を刈る事は普通であるが、明治初期においてはちょんまげ姿の男性が多かった。そのため、ちょんまげではなく散髪した頭をハイカラ頭と言った。

②譜2 「ひとつとや」(歌：土居由乃)

譜2 ひとつとや
♩ = 96~104

ひとつとや 人々励み勉めよや 鶯(うぐいす)さえも法華経読む
ふたつとや 不為(ふため)になるもの 飲み喰うな
鶴は千歳の齢(よわい)もの
みつとや みだりに言葉を使うなよ 雉(きじ)も鳴かずば 撃たれまい
よっつとや 克(よ)く克(よ)く親に孝つくせ
鳥(とり)に反哺(はんぼ)の孝もある
いつつとや いつも礼儀を忘るるな 鳩には三枝(さんし)の礼もある
むっつとや 無理に金銭むさぼるな 鷹は死しても穂はつまぬ
ななつとや 何より大事は忠の道 雀も忠と呼ぶなり
やっつとや 休むも務むも時間あり 鷄(き)さえも刻(とき)を知る
ここのつとや 心を第一修めよや 雁(かり)には知勇と仁義あり
とおとや 外つ国までも輝かせ 金鶏(きんし)の勲章あなうれし

*この歌は一から十まですべてにおいて「鳥」を引き合いに出して戒めとしている。

「鳥（とり）に反哺の孝あり」

幼鳥は口うつしで親から餌をもらう。その鳥が成長すると、その恩を忘れないで親に恩返しをする、という意味。

「三枝の礼」

鳩は礼讓の心があり、親鳥のとまっている枝から3本下の枝にとまること。鳥でも孝道を知っていることのたとえ。

「金鶏（きんし）の勲章」

金鶏勲章は、日清・日露戦争において武功のあった陸海軍軍人に下賜された勲章。

③譜3 「一に水仙」（歌：土居由乃）

譜3 一に水仙

♩ = 116~120

一に水仙 二にかきつばた 三に下がり藤
四に獅子牡丹 五つイ山の千本桜 六つ紫色よく染めて
七つ南天 八つ八重桜 九つ小梅に散らしをつけて
十で殿様定紋つける

④譜4 「じゅういちいなばの」（歌：山田美那子）

譜4 じゅういちいなばの

♩ = 138

十一因幡の白ウサギ 十二は二宮金次郎 十三三月ひなまつり 十四は四国の金比羅さん 十五は御殿の八重桜 十六ロシアの大戦争 十七七五の宮参り 十八浜辺の白ウサギ 十九は九重天子さま 二十は東京二重橋

⑤譜5 「いちれつらんぱん」(歌：山田美那子)

譜5

いちれつらんぱん

♩ = 152

いちれつらんぱん はれつして にちろせんそうと
 なりました さっさとにげるは ロシアのへい
 しんでもたたかう にほんのへい ごまんのへいと
 たたかって ろくにんのこして みなごろし
 しちがつようかの たたかいに ハルビンまでも
 せめよせて クロボトキンの くびまとり
 と おでとうとう ぼん ぼん ざい

いちれつらんぱん破裂して 白露戦争となりました
 さっさと逃げるはロシアの兵 死んでも戦う日本の兵
 五万の兵と戦って 六人残して皆殺し 七月八日の戦いに
 ハルビンまでも攻め寄せて クロボトキンの首をとり
 十でとうとう万々歳

⑥譜6 「いっちゃんとの」(歌：山田美那子)

譜6

いっちゃんとの

♩ = 144

いっちゃんとの にいちゃん が さんちゃん とこで
 じつこして ごめんもいわずに いんじった
 ろくちゃんとの しちちゃん が はっちゃん とこで
 くりもろて ともたてずに いんじった

いっちゃんとのにいちゃんが さんちゃんとかで
 じつこして ごめんもいわずにいんじった
 ろくちゃんとのしちちゃんが はっちゃんとかで
 栗もろて ともたてずにいんじった

⑦譜7 「いちじく にんじん」(歌：山田美那子)

譜7

いちじくにんじん

♩ = 126

いちじく にんじん さんしょに しいたけ
 ごぼうに むかご ななくさ やまいも
 くわいに と う ぶ

いちじく人参 山椒にしいたけ ごぼうにむかご
 七草山芋 くわいに豆腐

2. はやし歌・冷やかし歌・悪口の歌

①譜8 「大寒小寒」(歌：土居由乃)

譜8

大寒小寒

♩ = 116~126

おお さぶ こさぶ こさぶやの ばあさんが
 どこでとしゅうとろうか むこうの やまの
 しゃしゃきの したで スッココン コンヤ

大寒(おおさぶ) 小寒(こさぶ) こさぶやの 婆さんが
 どこで年うとろうか 向こうの山の しゃしゃきの下で
 スッココンコンヤ

*年の瀬が押しせまってきたが、借金が返せそうに
 ない。家にいたら借金取りが来るのでどこかに逃げな
 ければならない。さてどこに逃げて年越しをしたもの
 かなあ。向こうの山のしゃしゃきの下にはキツネが
 いて、スッココンコンと鳴いているので怖いしな
 あ。・・・と途方に暮れ思案している様子を歌っ
 ている。

②譜9 「坊主ぼっくり」(歌：土居由乃)

譜9 坊主 ぼっくり

♩ = 126くらい

ぼう ず ぼっ くり やまの い も
に て も や い て も く えん ぞ

坊主ぼっくり 山の芋 煮ても焼いても喰えんぞ

③譜10 「坊さん 坊さん」<その1> (歌：土居由乃)

譜10 坊さん 坊さん

♩ = 120~126

ぼん さん ぼん さん どこ ゆく の
わ た し ほ た ん ぼ へ い ね か り に
わ た し も い つ し ょ に つ れ し ゃ ん せ
お ま え が く る と じ ゃ ま に な る
かん かん ぼう ず かん ぼう ず
う し ろ の し ょ う め ん だ あ れ

「坊(ぼん)さん 坊(ぼん)さん どこゆくの」
「私はたんぼへ稲刈りに」
「私も一緒に連れしゃんせ」
「おまえが来ると邪魔になる」
「かんかん坊主 かん坊主 後の正面だあれ」

④譜11 「坊さん 坊さん」<その2>

(歌：山田美那子)

譜11 坊さん 坊さん

♩ = 84

ぼん さん ぼん さん ど こ い く の わ た し ほ た ん ぼ へ い ね か り に
わ た し も い つ し ょ に つ れ し ゃ ん せ お ま え が い つ た ら
じ ゃ ま に な る こ の き ん かん ぼう ず く そ ぼう ず

「坊(ぼん)さん 坊(ぼん)さん どこ行くの」
「私は田圃へ稲刈りに」
「私も一緒に連れしゃんせ」
「おまえが行ったら邪魔になる」
「この金柑(きんかん) 坊主 くそ坊主」

⑤譜12 「みかん きんかん」(歌：土居由乃)

譜12 みかん きんかん

♩ = 120~126

み かん きん かん さ け の かん お や じ の い う こ と
こ が き かん きん かん あ た ま で あ つ け ら かん

みかん きんかん 酒のかん おやじのいうこと
子がきかん きんかん頭であっけらん

⑥譜13 「どこどこ どこいく」(歌：山田美那子)

譜13 どこどこどこいく

♩ = 144

ど こ ど こ ど こ い く
ど こ は どん どの はし の し た

どこどこ どこいく どこはどんどの橋の下

⑦譜14「一も二もない」(歌：山田美那子)

譜14 一も二もない

♩ = 152

いちにもないさんびんが しりもせんこと
 ごじゃごじゃと ろくでもないこと しちめんちよう
 はつたろか くらたろか ぞんでいけ

一も二もない三びんが 知りもせんこと ごじゃご
 じゃと ろくでもないこと 七面鳥 はつたろか
 喰うたろか 飛んでいけ

③譜17「蜂が刺いた」(歌：土居由乃)

譜17 蜂が刺いた

♩ = 144~152

いちがさいた にがさいた さんがさいた
 しがさいた ごーがさいた ろくがさいた
 ひらがさいた はらがさいた ぶんぶんぶんぶん

一が刺いた 二が刺いた 三が刺いた 四が刺いた
 五が刺いた 六が刺いた 七が刺いた 八(蜂)が刺
 いた ぶんぶんぶんぶん

3. 室内での二人あそびの歌

①譜15「一里二里」(歌：土居由乃)

譜15 一里二里

♩ = 138~144

いちりにりさんり しりしりしりしり

一里 二里 三里 四里(しり)尻 尻 尻

④譜18「あがり目」(歌：土居由乃)

譜18 あがり目

♩ = 144

あがりめ さがりめ
 くるりとまわって ニヤーのめ

あがり目 さがり目 くるりと廻って ニヤーの目

②譜16「だるまさん」(歌：土居由乃)

譜16 だるまさん

♩ = 132

だるまさん だるまさん にらめっこしましよ
 わろうたら だめよ ウントコドッコイショ

だるまさん だるまさん にらめっこしましよ
 わろうたら だめよ ウントコドッコイショ

⑤譜19「いちかけにかけ」(歌：山田美那子)

譜19 いちかけにかけ

♩ = 152~160

いちかけにかけ さんかけて しかけてごかけて
 はしをかけ はしのらんかん こしをかけ
 はるかむこうを ながむれば じゅうしちはちの
 おえさんが かたてにせんこう はなをもち
 おえさんおえさん どこゆくの わたしはきゆうしゅう
 かごしまの さいごうたかもり むすめです
 めーじじゅうねんさんが つみつか せつぶくなされた
 ちちうえさまのおはかまいりに まいります
 おはかのまえで てをあわせ なむあみだぶつと
 おがみます おはかのうしろで たましいが
 ゆらゆらゆらゆら ゆら じゃんけんぽん

いちかけにかけさんかけて しかけてごかけて橋をかけ
 橋の欄干腰をかけ はるか向こうを眺むれば 十七八の姉
 さんが 片手に練香花を持ち 姉さん姉さんどこゆく
 の私は九州鹿児島 西郷隆盛娘です 明治十年三月三日
 切腹なされた父上様のお墓参りにまいります お墓の前
 で手を合わせ 南無阿弥陀仏 と拜みます お墓の後で
 魂が ゆらゆらゆらゆら じゃんけんぽん

4. しりとり歌

①譜20「につぼんのぎさん」(歌：山田美那子)

譜20 につぼんのぎさん

♩ = 152

につぼんのぎさんがいせんすずめじろし
 やばんこクロボトきんのたま まけてにけるは
 チャンチャンぼう ぼうでたたくはいぬころし
 シベリアてつどう とうけれど どびんのくちから
 はきだせば ばばあのとしは はちじゅうに

日本乃木さん凱旋すずめじろしやばんこクロボトきんの
 たま 負けて逃げるはチャンチャンぼう ぼうで たたく
 は犬ころし シベリア鉄道とうけれど 土瓶の口からはき
 だせば 婆の年は八十二

②譜21「正直じいさん」(歌：山田美那子)

譜21 正直じいさん

♩ = 138

しよ しよ しょうじき じいさん へたばった
 た た たぬきの きんだま はちじゅうじき
 き き きつねの しっぽをだんごにしよ

しよ しよ 正直じいさん へたばった
 た た 狸の金玉 八畳敷き
 き き きつねのしっぽをだんごにしよ

③譜22 「いちりきらんらん」(歌：山田美那子)

譜22 いちりきらんらん

♩ = 120~126

い ち り き らん らん らっ きょ う て し っ し
しん が ら ま め きゃっ きゃ きゃ べ っ て ほい

いちりきらんらん らっきょ喰うてしっし
しんがらまめきゃっきゃっ きゃべ喰ってほい

5. その他の歌

①譜23 「ゆうびんホイ」(歌：土居由乃)

譜23 ゆうびんホイ

♩ = 126

ゆう びん ホイ ま た き た ホイ
お か み の ご よ う で エ ッ サ ッ サ

ゆうびんホイ また来たホイ
お上のご用でエッサッサ

*郵便屋さんの来るのが珍しい時代。手紙を竹には
さんで配達した。津山市役所の前身である郡役所から
の「ご用」だった。

②譜24 「中国線」(歌：土居由乃)

譜24 中国線

♩ = 112~120

きょうのてんきさ しあわせに ちゅうごくせん の きしやにのり
けむりのこして おかやまを いけばたまがしののくちや
トンネルすぎて さくしゅうじ しあわせよしやの ふくわり
ゆげのしょうちゅう なもかおる ほうねんしょうにんたんじょうじ
くめのさらやまさらさらに ながれもきよきよしいがわ

今日の天気をしあわせに 中国線の汽車に乗り
煙残して岡山を 行けば玉柏 野々口や
トンネル過ぎて作州路 しあわせよしやの福渡り
弓削の焼酎名も薫る 法然上人 誕生寺
久米の皿山さらさらに 流れも清き吉井川
城下のもとに開けたる 津山の町にぞ着きにける

*中国線の開通を喜んで、1900年に作曲された「鉄
道唱歌」⁴⁾の旋律を替え歌にしたものである。

現在のJR津山線の停車駅が岡山から津山に向かっ
て歌われており、作州にはいつてから多くの地名が盛
り込まれている。

③譜25「山寺の和尚さん」(歌：土居由乃)

譜25 山寺の和尚さん

♩ = 116~126

やま での の おしやう さんが まりは けりたし
 まりは なし ねこを かんがくろに どしこんで
 ポンと けりや ニヤンと なく ニヤンと なきや ポンと ける
 ポン ポコポンの ポンと けりや ニヤン ニヤコニヤンの ニヤンと なく
 あ はる の ひうら ら

山寺の和尚さんが 鞠は蹴りたし鞠はなし
 猫をかんぶくろにどしこんで ポンと蹴りや
 ニヤンと鳴く ニヤンと鳴きやボンと蹴る
 ポンポコポンのボンと蹴りや
 ニヤンニヤコニヤンのニヤンと鳴く
 あー 春の日うらら

④譜26「たんたんたぬき」(歌：土居由乃)

譜26 たんたん たぬき

♩ = 116~120

たん たん たぬきの きん たまは
 か げに ゆら れて ゆら ゆら
 そ れを み て い た お や だ ぬ き
 は ら を か か え て わっ はっ はっ
 ちやう し を あ わ せ て ゆら ゆら

たんたん たぬきの金玉は 風に揺られて ゆらゆら
 それを見ていた親だぬき 腹をかかえて わっはっはっ
 調子を合わせて ゆらゆら

⑤譜27「だれとだれとに」(歌：山田美那子)

譜27 だれとだれとに

♩ = 144

だ れ と だ れ と に な り た い か
 あん た と だ れ と に な り た い か

だれとだれとになりたいか あんたとだれとになりたいか

⑥譜28「あめがしよぼしよぼ」(歌：山田美那子)

譜28 あめがしよぼしよぼ

♩ = 132

あ め が しよぼしよぼ ふるぼんに まめだ が とつくりもつて
 さ け か い に こ んぼん は はい こ んぼん は

雨がしよぼしよぼ降る晩に 豆狸(まめだ)がとつくり
 持って酒買いに 今晚は はい 今晚は

以上、採取した津山のわらべうたの中から、ことばあそびに関する28曲について、楽譜と若干の解説を示した。

註

- 1) 杉山知子・井戸和秀 2003 津山のわらべうた(1) 美作女子大学・同短期大学部紀要48 91-100
- 2) 津山市押入に生まれ、現在津山市下田邑に在住。調査時点において86歳である。
- 3) 津山市林田町に生まれ、現在津山市林田に在住。調査時点において65歳である。
- 4) 堀内敬三・井上武士編 1978 日本唱歌集 岩波文庫 66

謝辞

わらべうたの採集に当たっては、土居由乃氏(津山市下田邑在住)、山田美那子氏(津山市林田在住)のお二人に多大

なるご協力をいただいた。また、採譜においては、朋友、森やよいさん（千葉県君津市在住）に惜しめない援助をいただいた。

採録に快く応じていただいた皆様方に、ここに記して厚く感謝，お礼申し上げます。